

れレ等云云。設親父たれども一向小乗の寺に住する比丘・比丘尼をば、一向大乘寺の子息此を礼拝せず親近せず。何況其法を修行せんや。大小兼行の寺は初心の者入レことを許す。

而今日日本国は最初仏法の渡リて候し比は大小雜行にて候しが、人王四十五代聖武天皇の御宇に唐の揚州竜興寺の鑑真和尚と申せし人、漢土より我朝に法華經天台宗を渡給て有しが、円機未熟とやおぼしけ

ん、此の法門をば己心に収て口にも出し給はず。大唐の終南山の豊徳寺の道宣律師の小乗戒日本国三所

に建立せり。此偏に法華宗の流布すべき方便也。大乘出現の後には肩を並て行よとにはあらず。例は儒

家の本師たる孔子・老子等の三聖は仏の御使として漢土に遣されて、内典の初門に礼・楽・文を諸人に

教たり。止観に經を引て云、**「我三聖を遣わして彼の震旦を化す」**等云云。妙楽大師云、**「礼楽前に馳**

せて真道後に開く」云云。釈尊は大乘の初門に且小乗戒を説給しかども、時過ぬれば禁誓云涅槃經

云、**「若し人有りて如来は無常なりと言はん、云何んぞ是人の舌墮落せざらんや」**等云云。

其後、人王第五十代桓武天王の御宇に、伝教大師と申せし聖人出現せり。始には華嚴・三論・法相・俱

舍・成実・律の六宗を習極給のみならず、達磨宗の淵底を探究竟するのみならず、本朝未弘の天台

法花宗・真言宗の二門を尋頭て浅深勝劣心中に存給去延曆廿一年正月十九日に桓武皇帝高雄寺に

行幸ならせ給、南都七大寺の長者善議・勤操等の十四人最澄法師に召合せ給て、六宗と法花宗との勝劣

浅深、得道の有無を糾明せられしに、先は六宗の碩学各々宗々ごとに我が宗は一代超過ノの由立申さ

れしかども、澄公の一言に万事破畢ぬ。其後皇帝重て口宣す。和氣弘世を御使として諫責せられしか